

限りない未来へはばたいてゆく、豊かな可能性を育んでほしい

(故) 学長 齋 藤 秀 晃



これから始まるキャンパスライフに、あなたはどんな夢を描いているでしょうか。平成6年4月に看護学科のみの単科短期大学として発足した本学は、平成9年度には保健婦（士）及び助産婦養成の2つの専攻科の設置を予定しています。まだ芽ばえたばかりの新しい学校。学内は活気と新鮮な気風に満ち、熱気ある教授陣が常にあたたかい指導の手を差し伸べています。

また、この上越市は、文教都市の気品と自然のあふれる環境に恵まれた地です。あなた方はここで、仲間との友情や、将来の仕事に対する誇りを育み、すばらしい人生の糧を得ることでしょう。何事も柔らかな感性で見つめ、たくさんのお出合いを経験してください。そして未来へはばたく大きな夢を築いてほしいと思います。

(1995年度版大学案内から)

開学からの6年間の総括

(故) 学長 齋 藤 秀 晃

新潟県立看護短期大学は、開学後6年とその歴史は新しいものの、看護学科卒業生388人、専攻科修了生178人を送り出し、就職している卒業生の多くは、県内の病院はもとより県内市町村並びに県外の病院及び市町村などの看護職員として、患者の健康の回復、保持への援助や地域社会における健康教育、健康相談などの重責を果たし、保健医療水準の向上の一翼を担っていることは、「生命の尊厳と価値観に立つ豊かな人間性を育むとともに、正しい判断力と思考力をもって人に接することのできる優れた看護専門家を育成する」ことを目標と掲げ、教授してきた結果と自負しているところである。

新潟県は、慢性的な看護職員不足の解消、人口構造の高齢化や医療内容の高度化、専門化の一層の進展とともに、看護現場において、新しい看護ニーズに対応した指導的役割の果せる資質の高い看護職員の養成のため、平成2年12月に「県立看護系短期大学設立検討委員会」を設置した。平成3年3月、同委員会より提出された「県立看護系短期大学設置基本構想」に基づき、本学は看護学